

日本ELVリサイクル機構 ニュースレター (ELV Newsletter)  
 《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男  
 一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2-2 一美ビル5F  
 Tel:03-3519-5181 Fax:03-3597-5171 メール: jaera-homepage@elv.or.jp URL: http://www.elv.or.jp/

目次	
巻頭言	1
代表理事メッセージ #3	1
ELV機構経済活動調査	1
ELV 機構便り	
関東具ロック会議	2
冬期節電要請	2
リ法見直し意見集約	2
鉄スクラップ市場	3
編集企画	3

先日、福島県の解体業者さんへ訪問しました。以前は本社が浪江町でしたが、原発事故により立ち入り制限区域に指定されたため、社長さんは一時は店をたたむことも考えたそうですが、この仕事を続けたいと願う社員の皆さん達の気持ちにほだされて、なんとか別の土地で事業を再開するに至りました。しかし、40人いた従業員の殆どがやむを得ない事情で、これぞ、人で再スタート。現在、社員の半数以上が入社1年未満の新人とでした。

「もし、どこかで震災があったら、今度は恩返しのために、真っ先に自分たちが駆けつけた」というお覚悟をお聞きし、逆にこちらが元気を頂いた次第です。

（株）大八商会 小宮山 敬仁  
（広報部会・東京都）

### 巻頭言

## 日本ELVリサイクル機構 河村 二四夫代表理事 メッセージ その3

### 時代への対応

～経済環境の変化とリ法施行10年に備える～

自動車リサイクルは揺籃期を経て第二期の資源循環時代に進む。今後は、資源確保のための物流システムを含む製品リサイクルシステムの構築が進む中で、資源循環の義務化が提案され新たな取組みがはじまる。

自動車リサイクルに関しても、特に希少物質を使用する次世代型自動車については資源循環事業への移行が求められる。我々業界にとっては、義務や責務の強化を余儀なくされるのが予想され、業界にとっての大転換期を迎える。

一方、使用済み自動車の流通ネットワークに始まり、モノ作り～分別分解技術の高度化に向けた教育、訓練の充実が求められよう。ELV機構会員の皆さんは、日本における自動車リサイクル産業の担い手であることを強く認識し、与えられた役割を果たす心構えを持って、次世代に向けての事業継続を図ることが重要な時期に来ていることをご認識いただきたい。

- ☆意見・質問など(アンケート自由回答抜粋)
- 未登録、無許可業者への対策があいまいである
  - エアバッグシステムの再生(販売)を可能に
  - ディーラーから車両を中古車として買われる
  - 処理を急がされる。引取り時点を税還付の起点に
  - EVバッテリー回収には、作業工程の危険度、作業量に見合う報酬を
  - 外国人のスクラップ業者が許可なしでニプラで破砕
  - エアバッグ作動処理費用が実態に合っていない(特に一部の外車)
  - リサイクル料金の後送りシステムのしわ寄せは解体にくる口

## ELV機構会員 経済活動実態調査 (平成24年6月版)

ELV機構では、加盟する事業者の経済活動実態を把握し、事業活動に反映させることを目的に、予め、各地域団体の推薦で選定し、登録した事業者(現在53社)に対して四半期毎のアンケート調査を行い、結果を集計して会員に公表します。その第一回調査が本年6月に行われ、このほど集計結果が出たので概要を報告します。  
 なお、数値は調査時点と前年同期を比較したものです。

### ①車両仕入状況

入庫台数	増加 55%	変化なし 24%	減少 18%
仕入れ単価	増加 33%	変化なし 35%	減少 29%
今後3か月の見通し	増加 14%	変化なし 18%	減少 68%

### ②国内部品販売

国内販売額	増加 24%	変化なし 39%	減少 37%
今後3か月の見通し	増加 18%	変化なし 45%	減少 37%
輸出額	増加 17%	変化なし 23%	減少 59%
今後3か月の見通し	増加 8%	変化なし 25%	減少 67%

### ③国産資源販売

資源販売	増加 24%	変化なし 23%	減少 53%
今後3か月の見通し	増加 4%	変化なし 27%	減少 69%
その他	増加 6%	変化なし 25%	減少 39%

### ④会社全般

収益動向	増加 15%	変化なし 14%	減少 71%
今後3か月の見通し	増加 6%	変化なし 24%	減少 70%
資金繰り	増加 8%	変化なし 47%	減少 43%
総売り上げ	増加 20%	変化なし 14%	減少 65%

(←左へ続く)

### 【関東ブロック会議報告】

去る10月21日、箱根湯本の吉池旅館にて、自動車再資源化協力機構の須藤部長と三淵マネージャーをお招きして「旧関東3ブロック合同会議」(現在は「関東ブロック会議」)が開催されました。



関東ブロックは、ELV機構設立以前からあった「首都圏廃車流通協議会」を前身とし、20年ほど前からこのような合同会議が行われてきました。また、当時から各県が順番に幹事を務める習わしで、会議ごとに幹事県の特徴が良く表れ、その地域ならではの良さを感じることができます。以前、山梨県での会議のときに、高所から見た眼下一面に広がる、満開に咲いた桃の花の美しさは今でも忘れられません。(肝心の会議内容はすっかり失念してしまいましたが。)

さて、閑話休題。今年の幹事は東京でした。去年までは1都8県で構成されていたのが、今年は長野県より「中部北陸ブロック」への移行要望が出たため、1都7県、総勢25名の参加となりました。

会議では、河村代表(山梨)の挨拶に始まり、スズキ(株)より新型ワゴンRのリチウムイオン電池回収スキームの説明と各県の市場状況報告、在庫状況の報告等がありました。10分ほどの休憩をはさんだ後、自再協の三淵マネージャーより引き取り報告台数とフロンガス類、エアバック類の処理状況等の報告がありました。その後は議事次第に沿って、上期活

動報告及び下期 活動計画が報告されましたが、中身の濃い内容が盛りだくさん、かつ質疑応答もあったため予定時間を相当過ぎてしまいました。ゆっくり温泉を楽しみたい方には少し時間が足りなかったのは残念であったと思います。会議終了後、懇親会が和やかな雰囲気の中で行われました。今回の会議を通じて、関東ブロックの皆さんは、一致団結して河村代表を応援し、今後もブロックを上げてELV機構を盛り上げていこうと決意してくれたのではないのでしょうか。□

報告：日本ELVリサイクル機構ブロック会議議長

金澤 幸寿氏(東京都/写真)



### 自動車リサイクル法見直し 意見集約への協力お願い

平成14年7月に成立した自動車リサイクル法(使用済み自動車の再資源化等に関する法律)は、平成17年(2005年)1月1日に本格施行されましたが、同法では、「施行5年以内に、この法律の施行状況について検討を加え、その結果に基づいて必要な措置を講ずる」とされています。(附則第13条)

現在、施行10年を迎える平成27年(2015年)に向けて、再度、施行状況についての検討が行われることが巷間伝えられています。

前回の検討作業の際は、第12回合同審議会(平成20年7月)を皮切りに、同年中に6回、平成21年に10回の計16回の合同審議会を開催するといった、大変な労力が注がれました。今回の方向性ははまだ明らかになっていませんが、我々の業の根幹にかかわる法律であることから、今後の「検討」に際しては、我々が日ごろから抱える全ての課題や疑問、運用に関する要望等を精査して、合同審議会に出席する我々の代表を後方から支援することが必要です。

先般、機構会員向けのアンケート調査を行いました。各社内、各団体内での議論を更に展開していただき、自動車リサイクル法の問題点、今後への要望などをとりまとめて、ELV機構事務局に発信して下さるようお願いいたします。□

### 冬期節電についての国からの要請

経産省自動車課では、当機構を含む自動車関係諸団体に対して、11月13日付けで「今冬の節電に関するご協力をお願いについて」と題する書簡を送り、電力需要の高まる冬場の節電対策についての協力を要請しています。

これは、去る11月2日に開催された、電力需給に関する検討会合/エネルギー・環境会議合同会合において決定した「今冬の電力需給対策について」に基づくものです。今回の要請では、今冬は厳冬となることを想定した上で、瞬間的な需要変動に対応する3%以上の予備率は確保できているとしつつも、発電所の計画外停止など、不測の事態に対応するため、数値目標を伴わない節電となっています。(沖縄電力管内を除く全国共通の要請)

また、要請期間は、平成24年12月3日(月)～平成25年3月29日(金)の平日(12/31、1/2～4を除く)の09:00～21:00(北海道、九州は08:00～21:00)となりますが、北海道に関しては、全国共通要請に加えて多重的な対策が要請されています。

なお、要請内容の詳細に関しては、以下の経産省webサイトをご覧ください。□

## ～11月第5週（30日）の鉄スクラップ動向～ 国内市況天井感で輸出価格も小幅下落

**国**内の鉄スクラップ市況に天井感が出ている。電炉の生産が高まる23～25日の3連操を終えたことで、高値解消の動きとなったためだ。また、これに伴って輸出価格も小幅に下落した。貿易筋によると、直近の韓国向けのH2輸出成約価格は1トあたりFOB26,000～26,500円となっている。H2輸出価格は、連休前後に直近最高値のFOB27,000円をつけた。しかしその後、韓国ミルは日本国内相場に天井感が見られることを受けて、新規契約価格を切り下げた。日本商社・シッパー筋も値下げを受け入れ、商談に応じたもようだ。

ただ、このまま輸出価格が下落基調を続けるかどうかは不透明。別の貿易筋は「トルコや韓国ミルは今後、1～2月入着分の鉄スクラップの手当てに入るため、再び引き合いを強めるのでは」と見ている。また、日本国内も輸出約残が多く、これがスクラップ相場を下支えすることから、大幅な下落にはつながらないとの見方も多い。

**速報** 財務省・貿易統計によると、10月の日本の鉄スクラップ輸出量（HSコード7204の合計）は、前月比26.0%増、前年同月比79.9%増の79万4156トだった。2カ月ぶりに70万ト台に回復しただけでなく、今年最多の月間輸出量となった。

## 関東地区 様子見横ばい推移のまま12月入り

関東地区の鉄スクラップ相場は、様相見横ばい推移のまま12月入りする公算だ。11月23～25日の3連操で電炉筋は一律に在庫水準を減らしており、各社とも在庫回復が急務となったため、実勢購入価格を維持して、入荷を促す姿勢を保った。また、連休後の船送り数量が1週間で約6万トと高水準だったことも、電炉の姿勢を慎重にした。現在の関東地区のH2炉前実勢価格は25,000～26,000円中心、高値26,500円見当。

## 東海地区 メーカー実勢価格は11月下旬から据え置き横すべり

### 《編集企画》～日本再生への道～

混沌とする21世紀の世界、疲弊し自信を喪失した感のある我が国が再生する道はあるのか。識者、賢者の話を見聞きし、勉強のためにと読んでまとめてみました。大それた題で人様にお見せするようなものではないのですが、話のネタになればと思ひ、何回かに分けて投稿します。（編集子）

話の始まりはエネルギー問題です。2004年には原油価格が40ドルになり、世界経済の拡大とエネルギー価格が密接に連携してマネーゲームの状況を呈します。2008年には原油価格が史上最高値の147ドルをつけますが、その年のリーマンショック後の12月には32ドルに下落。石油価格が実際の需要にリンクしているのであればこんなことにはならないはず。石油は金余りのマネーゲームの材料になっていたことが露呈します。

東海地区の電炉メーカーは、11月13日までに1,500円方の購入価格引上げが一巡した後も、丸棒メーカーを中心に半数のメーカーが500円刻みで2回・計1,000円方の追加上げを実施。しかし、特殊鋼メーカーを中心に残る半数は追随上げを拒んだ格好となったため、市中値は直近の安値から1,500円方の上げにとどまった形のまま、11月下旬入り早々に上げ一服感となった。H2炉前実勢価格は23,000～24,500円どころで据え置き横すべり。

## 関西地区 大阪の鉄スクラップ相場は弱横ばい、先行き見通し不透明

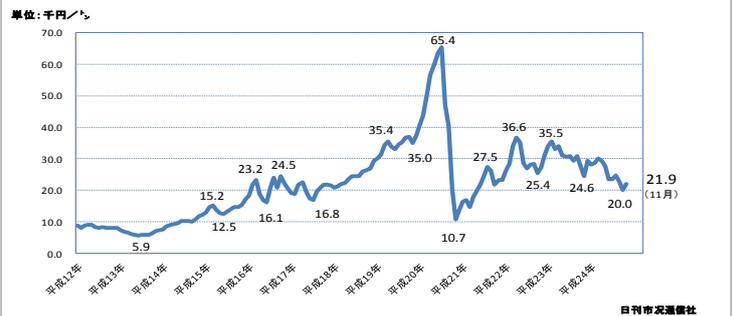
大阪地区の鉄スクラップ相場は弱横ばい。同地区電炉は23～28日にかけて、特契・スポットを打ち切った。この結果、同地区電炉のH2炉前実勢価格は25,000～26,000円見当となり、上値が500円方落ちた。供給サイドでは「先行きの見通しは不透明」としながらも、相場の地合いは「決して強くない」との見方が一般的だ。品物の枯渇、円安・ドル高の進行は好材料だが、地場メーカーの生産量減少などが重圧となっている。

（※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、11月30日時点のもの）

11月30日の国内スクラップ炉前実勢価格

		H2		気配
関東	北関東	25,000	～ 26,000	横ばい
	南関東	25,000	～ 26,000	横ばい
名古屋		23,000	～ 24,500	横ばい
関西	大阪	25,000	～ 26,000	横ばい
	姫路	23,500	～ 24,000	横ばい

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



エネルギーに関わるとはいえ、若干異なった話になりますが、悪名高いソマリアの海賊の人質となっているフィリピン人船員は100名を超えているといわれています。心配したフィリピン政府は、危険地域へ行かざるを得ない雇用を禁止する法律を作るところまで行ったそうですが結局撤回します。それは、日本の船舶の船員の実に70%がフィリピン人であったためです。タンカーから豪華客船まで同じで、フィリピン人船員がいないと日本の船は動かないのです。このことから今の日本経済が如何に脆いかが伺えるのではないのでしょうか。一方、他にも法案撤回の理由がありました。実は、多くのフィリピン人が海外で働いており、同国にとっては海外就業者からの送金が重要な外貨獲得手段なのです。

(第一回完)